

案

村上市歯科保健計画
(第2次)

～ 生涯自分の歯でしっかり食べよう ～

村上市

平成31年 月

目 次

第 1 章 計画策定に当たって

1. 計画策定の背景と目的	1
2. 計画の位置づけと期間	2
3. 計画の基本方針	3

第 2 章 歯・口腔の健康づくりの推進 ライフステージ別 歯の健康状況・課題・取組

1. 乳幼児期	5
2. 学童・思春期	10
3. 成人期	14
4. 高齢期	21
5. 要介護者・障がい者	24

第 3 章 計画の推進体制

1. 計画の推進体制	28
2. 計画の評価・見直し	28
3. 評価指標	29

資 料 編

1. 統計資料	32
2. 歯科保健計画評価指標（第 1 次）	37
3. 村上市健康づくり推進対策委員会名簿	38
4. 用語解説	39

第1章 計画策定に当たって

1. 計画策定の背景と目的

歯や口腔の健康は、全身の健康に影響するとともに、食べるという欲求や活動意欲、または生きるという気力にまで影響を及ぼす重要な問題です。

国では平成元年から、生涯自分の歯で食べるために「80歳になっても20本の歯を保つこと」を目標とした『8020運動』を推進しています。更に、平成24年には「歯科口腔保健の推進に関する法律」に基づき、「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」が定められ、ライフステージごとの特性を踏まえつつ、生涯を通じた切れ目のない歯科口腔保健に関する施策を展開することが重要とされました。

新潟県では、これまで「むし歯半減10か年運動」等の歯科保健計画を展開し、12歳児の一人平均むし歯数が平成29年までの18年間連続で、全国で一番少ない県となっています。また、全国に先駆けて策定した「新潟県歯科保健条例」を平成24年に一部改正し、歯科保健の一層の推進に努めています。

本市においては、平成22年に策定した「健康むらかみ21計画」を基に、平成26年3月「村上市歯科保健計画」を策定し、『生涯自分の歯でしっかりかんで食べられる』を目標に、市民が「歯と口腔の健康づくりを図る」ことの重要性を認識、実践できるよう家庭や地域、関係機関など協働で取組を進めてきました。これまでの間、歯科衛生士の雇用、成人歯科健診やフッ化物洗口の拡充など施策の充実を図ったことで、乳幼児期から学童・思春期においてむし歯有病者率が減少するなど一定の成果を得ています。

しかし、その一方で歯周炎を有する人の若年化や、高齢期での残存歯が県平均より少ないという状況にあります。幼児期からかかりつけ歯科医をもち定期的に歯科健診を受け、早期治療や口腔ケアに関する指導が重要といった強化すべき課題が出ています。

この度、計画期間が終期を迎えるにあたり、これまでの取組を評価し健康に関する調査などを基に、今後の課題を踏まえた新たな行動目標を設定しました。

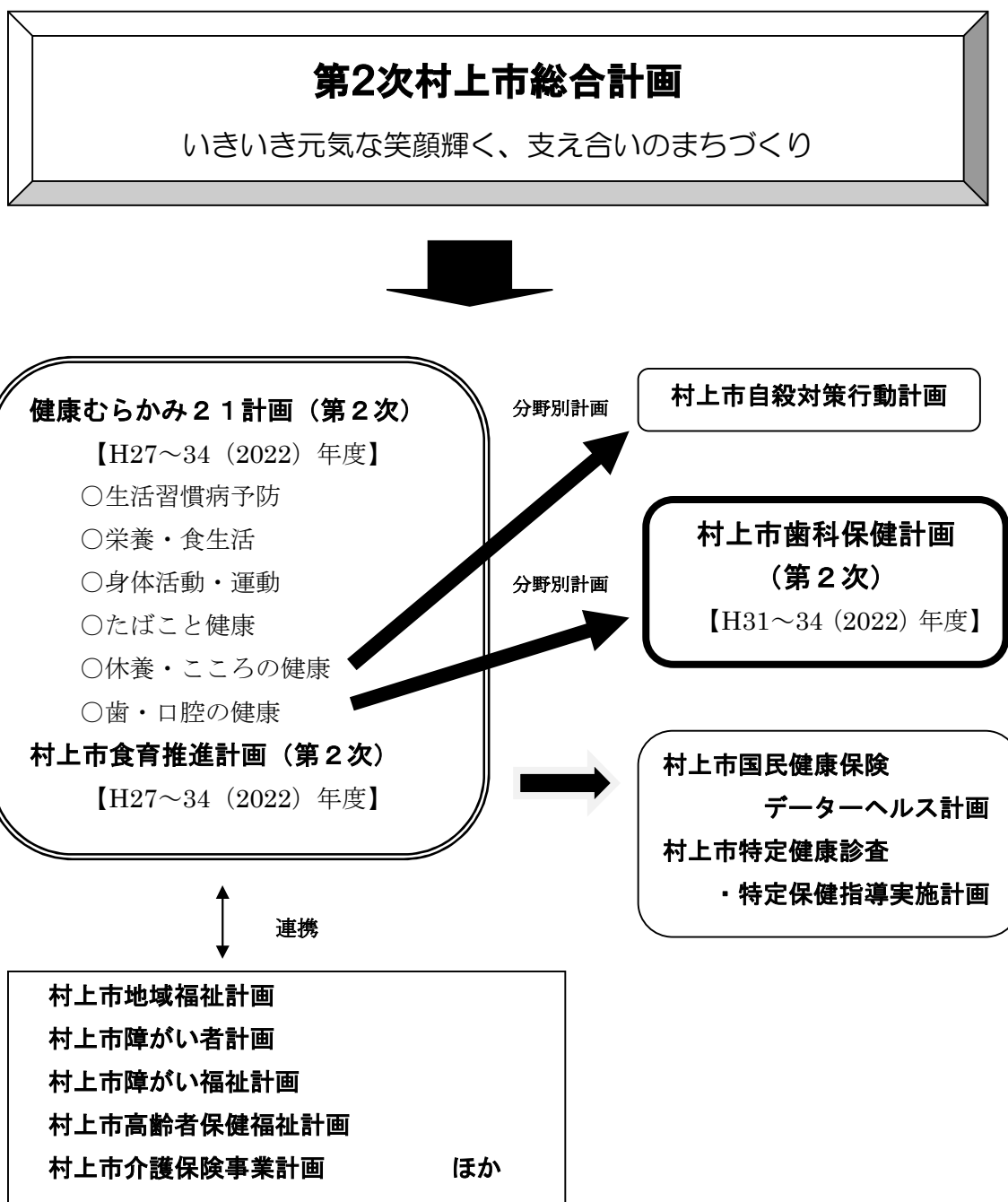
また、6つのライフステージを見直し、「胎生期」は「成人期」に含め5つに分類しました。乳幼児から高齢者まで生涯にわたる歯と口腔の健康を維持し、生活の質(QOL)を維持向上させることを目的に、個人、家庭、地域、関係機関、行政などでできる取組を掲げ「村上市歯科保健計画(第2次)」を策定しました。

2. 計画の位置づけと期間

本計画は「健康むらかみ21計画（第2次）」を基に「歯・口腔の健康」の分野別計画として位置づけています。また、本計画を始め関連する各計画と整合性を図ることとしています。

計画の期間は、平成31(2019)年度から平成34(2022)年度の4年間とします。

《市の各計画との関連体系》



3. 計画の基本方針

歯科保健計画（第2次）では、すべての市民が「生涯自分の歯でしっかりかんで食べられる」ことをめざし、ライフステージごとに乳幼児期、学童・思春期、成人期、高齢期、要介護者・障がい者の5つに分けめざす姿を設定しています。また、前計画で設定されていた胎生期は国に準じ成人期に含めることとしました。

本市では、歯と口腔の健康づくりの基本的な取組として「むし歯・歯周疾患予防のための生活習慣の習得」「口腔機能の維持を図る」「かかりつけ歯科医をもち定期歯科健診の定着を図る」ことを推進します。

歯と口腔の健康は生活習慣病の予防や介護予防につながり生活の質（QOL）を向上させます。市民一人ひとりが歯と口腔の健康を保てるよう実践するとともに、家庭や地域、関係機関等と協働し取組むことで「健康寿命の延伸」と「健康格差の縮小」を目指します。

健康むらかみ 21 計画基本方針

自分の健康に関心を持ちよい生活習慣を身につけよう



歯科保健計画目標

生涯自分の歯でしっかりかんで食べられる



行動目標

- よくかんでバランスの良い食事を心がける
- 補助的清掃用具を使い、お口の正しいケアを行う
- 歯質の強化に努める
- 定期的に歯科受診をする

各年代における取組の方向性

	乳幼児期	学童 思春期	成人期	高齢期	要介護者 障がい者
めざす姿	大切な乳歯を親子で守る	歯と口腔ケアの方法を身につける	歯と口腔の健康を維持するために歯周病を予防する	しっかりかんで飲み込むことができる	お口の健康に関心を持つことができる
基本的な取組	むし歯・歯周疾患予防のための生活習慣の習得				
	口腔機能の維持を図る				
	かかりつけ歯科医をもち定期歯科健診の定着を図る				
取組の方向性	バランスの良い食事を心がけ、砂糖のとり過ぎに注意する				
	よくかむ習慣を心がける				
	小学校低学年までは1日1回の仕上げみがきを行う	*補助的清掃用具を使い、お口のケアを行う			
	かかりつけ歯科医で定期的に歯科健診を受診する				
	フッ化物歯面塗布を受ける	フッ化物洗口を行う	フッ化物入り歯磨き剤を使用し、毎食後に歯みがきをする		

*1次計画では「歯間清掃用具」と表記していましたが、2次計画では歯ブラシ以外の様々な清掃用具があることから「補助的清掃用具」としました。

第2章 歯・口腔の健康づくりの推進

～ライフステージ別 歯の健康状況・課題・取組～

1. 乳幼児期

めざす姿

大切な乳歯を親子で守る

《これまでの主な取組》

- ・ 1歳6か月児、2歳児、2歳6か月児、3歳児健康診査における歯科健診（以下「幼児歯科健診」という）
- ・ 3歳6か月児歯科健診（医療機関委託）
- ・ フッ化物歯面塗布の実施
- ・ フッ化物洗口（保育園年中、年長児の希望者）の実施
- ・ 乳幼児健康診査、歯科衛生士による保護者への仕上げみがきなどの歯科保健指導
- ・ 保育園、幼稚園などで「お口の健康教室」を実施

《1次計画の評価》

目標達成状況

◎達成 ○目標に届かないが改善 ×悪化 ー未評価

評価指標	策定時 (H24年度)	直近値	目標値 (H30年度)	評価
3歳児の一人平均むし歯数	0.8本 (H23年度)	0.52本 (H29年度)	0.5本	○
3歳児のむし歯有病率	23.4% (H23年度)	14.9% (H29年度)	20%	◎
2歳児の仕上げみがきをしている人の割合	92.2% (H24年度)	96.8% (H29年度)	95%	◎
おやつのだらだら食べをしている園児割合	44.9% (H24年度)	—	40%	ー

定期的な歯科健診は、むし歯の早期発見、早期治療に大切であり、フッ化物歯面塗布及び洗口は歯質を強化することに有効です。また、歯科衛生士による歯科保健指導は、保護者へのむし歯予防の知識普及と正しい口腔ケアの実践へとつながり、むし歯有病者率は減少し目標を達成しています。今後も歯科健診を受け、フッ化物を利用できるよう働きかけ、年齢に応じた口腔ケア指導などを継続していく必要があります。

《現状》

■むし歯について

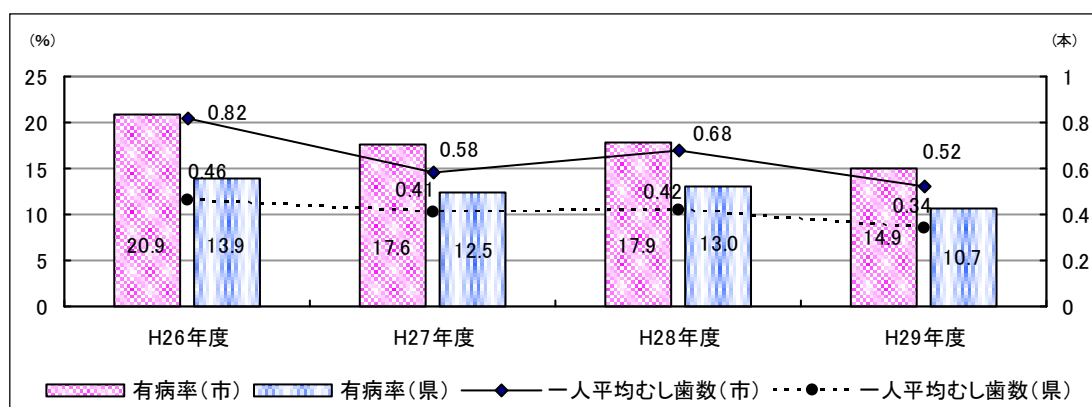
- ・ 幼児歯科健診の結果から、2歳児以降にむし歯有病者率は高くなっています。(図表1-1)
- ・ むし歯有病者率及び一人平均むし歯数は減少傾向にありますが、3歳児、5歳児ともに県平均値よりも高い状況です。(図表1-2、1-3) また、一人の子が多数のむし歯を持っている傾向があります。

【図表1-1】 幼児むし歯有病者率の推移

幼児歯科健診	H26年度	H27年度	H28年度
1歳6か月児	1.8%	0.6%	1.8%
2歳児	5.8%	6.3%	6.6%
2歳6か月児	12.1%	8.5%	10.3%
3歳児	20.9%	17.6%	17.9%
3歳6か月児		30.2%	27.6%

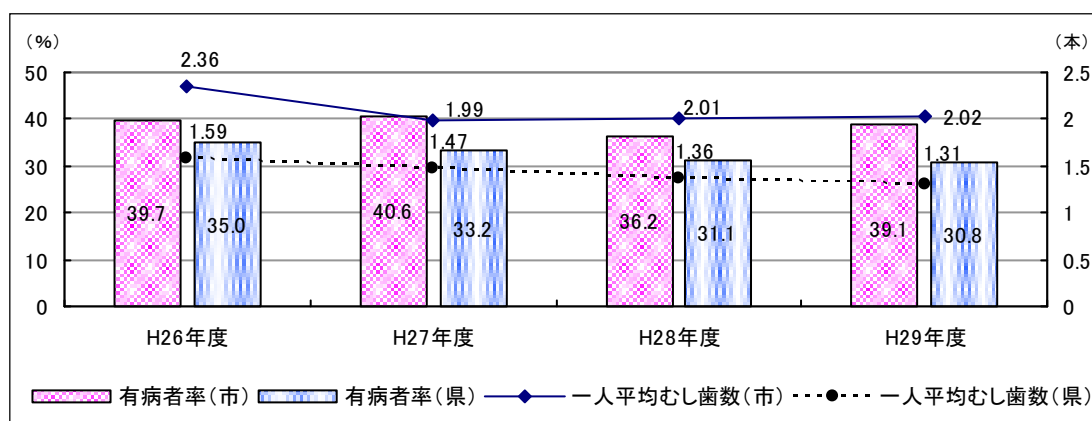
資料：母子保健事業報告

【図表1-2】 3歳児むし歯有病者率と一人平均むし歯数の推移



資料：小児の歯科疾患の現状と歯科保健対策

【図表1-3】 5歳児むし歯有病者率と一人平均むし歯数の推移



資料：小児の歯科疾患の現状と歯科保健対策

■ 幼児歯科健診受診率及びフッ化物歯面塗布率について

- ・ 幼児歯科健診受診率は、3歳児までは集団健診のため高い受診率になっています。
- ・ 3歳6か月児無料歯科健診(医療機関委託)の受診率は52.3%(H29年度)と低いですが歯科健診後のフッ化物歯面塗布率は100%です。(図表1-4)

【図表1-4】 幼児歯科健診受診率及びフッ化物歯面塗布率の推移

		1歳 6か月児	2歳児	2歳 6か月児	3歳児	3歳 6か月児※
H27 年度	歯科健診 受診率	97.5%	97.9%	89.1%	101.3%	46.0%
	フッ化物 歯面塗布率	98.9%	98.2%	98.8%	99.0%	98.3%
H28 年度	歯科健診 受診率	98.0%	96.7%	92.2%	96.5%	50.5%
	フッ化物 歯面塗布率	96.1%	97.6%	98.7%	96.9%	96.9%
H29 年度	歯科健診 受診率	98.8%	98.0%	93.1%	98.1%	52.3%
	フッ化物 歯面塗布率	96.7%	97.2%	98.9%	98.4%	100%

※3歳6か月児歯科健診は医療機関委託

資料：母子保健事業報告

■ 歯科に関する生活習慣について (乳幼児健診問診票と保育園児アンケートより)

※()内は調査年度

- ・ 2歳児健診問診票で「仕上げみがきをしている」と回答した者の割合は96.8%で「おやつ回数を決めている」と回答した者の割合は72.9%でした。(平成29年度)
- ・ 3歳児健やか親子アンケートで「かかりつけ歯科医がある」と回答した者の割合は22.9%でした。(平成29年度)
- ・ 保育園児アンケートで「おやつ時間を決めていない」と回答した者の割合は48.9%でした。(平成30年度)

《課題》

- (1) 保護者が毎食後の歯みがきや仕上げみがき、おやつの適切な与え方について理解し実践する必要があります。
- (2) 継続したフッ化物利用で歯質の強化を図るため、3歳6か月児歯科健診受診率を向上する必要があります。

《取組》

個人・家庭・地域	<ul style="list-style-type: none"> ・乳歯の頃から口腔ケアの大切さを知り、親子で毎食後の歯みがき習慣をもつ。 ・正しい仕上げみがきの方法を知り、小学校低学年まで仕上げみがきを継続する。 ・かかりつけ歯科医をもち定期的に歯科健診を受け、歯や口腔ケアの指導を受ける。 ・歯科健診後治療勧告を受けたら、早めに受診する。 ・定期的にフッ化物歯面塗布及び洗口を受ける。 ・おやつの量や回数を決め、だらだら食べをしないように努める。 ・よくかんで、バランスの良い食事を心がける。
関係機関	<p>【保育園・幼稚園】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食後の歯みがき指導を推進する。 ・治療などが必要な子どもの受診勧奨を強化する。 ・おたよりなどを通じて歯やお口の健康の大切さを普及する。 ・定期的に歯科健診を継続する。 ・保育園、幼稚園で保護者を対象に嘱託歯科医師による講話や歯科指導を行う。 <p>【歯科医師会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無料歯科相談などを実施し相談できる機会を設ける。 ・歯科健診をきっかけに定期健診を勧める。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・市報やホームページ、パンフレットなどでむし歯予防について普及啓発する。 ・乳幼児健康診査において、歯科衛生士による仕上げみがきの必要性など歯科保健指導の充実を図る。 ・おやつの適切な摂取について指導を行う。 ・定期的に幼児歯科健診及びフッ化物歯面塗布を実施し、欠席者には受診勧奨する。 ・保育園、幼稚園で歯科衛生士によるむし歯予防教室を行う。 ・保育園でフッ化物洗口を継続実施する。 ・幼稚園へフッ化物洗口の重要性について情報提供する。 ・保護者や祖父母によくかむなどの口腔機能の獲得やバランス食の指導を強化する。 ・給食やおやつによくかむことを意識できるメニューを取り入れる。 ・かかりつけ歯科医をもち定期的な歯科健診を勧める。

《評価指標》

評価指標	現状値	目標値 H34（2022）年度
3歳児のむし歯有病者率	14.9% (H29年度)	10%
5歳児のむし歯有病者率	39.1% (H29年度)	30%

2. 学童・思春期

めざす姿 歯と口腔ケアの方法を 身につける

《これまでの主な取組》

- ・小中学校のフッ化物洗口の実施
- ・小中学校において歯科衛生士による歯科保健指導の実施

《1次計画の評価》

目標達成状況

◎達成 ○目標に届かないが改善 ×悪化 ー未評価

評価指標	策定時 (H24年度)	直近値	目標値 (H30年度)	評価
12歳児むし歯 有者病率(中1)	21.2% (H23年度)	12.8% (H29年度)	18%	◎
12歳児一人平均 むし歯数(中1)	0.48本 (H23年度)	0.28本 (H29年度)	0.3本	◎
歯肉炎のみられる (G0・G)小中学生 の割合	小学生 9.2% 中学生 26.7% (H23年度)	小学生 9.1% 中学生 22.8% (H29年度)	小学生 5% 中学生 15%	○
補助的清掃用具を 使用している小中 学生の割合 (中学生は中3)	小学生 21.3% 中学生 14.2% (H24年度)	小学生 50.4% 中学生 45.3% (H30年度)	小学生 25% 中学生 20%	◎
仕上げみがきを1 回以上行っている 小学生の割合 (小1・小2)	51.3% (H24年度)	50.7% (H30年度)	55%	×
歯周病を知ってい る小中学生の割合 (小6・中3)	27.4% (H24年度)	小学6年生 70.5% 中学3年生 74.1% (H30年度)	32%	◎

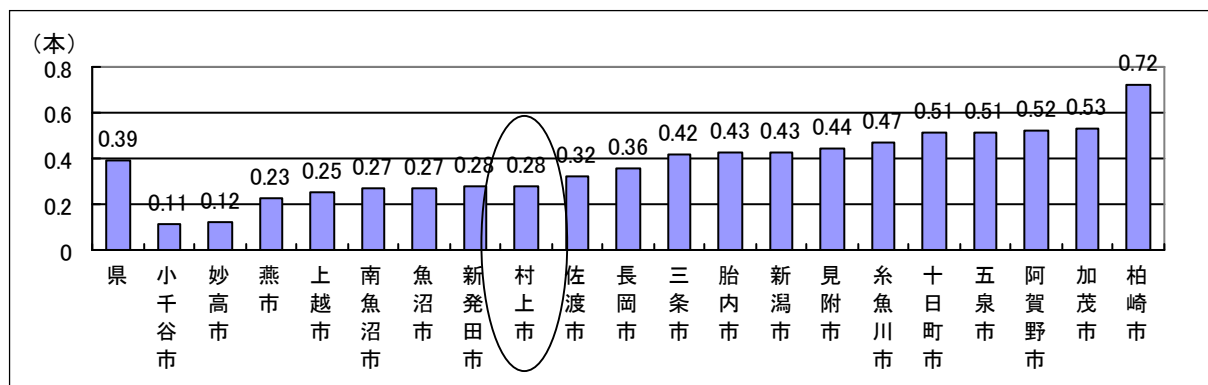
これまでの、むし歯予防の取組やフッ化物洗口の実施により、12 歳児むし歯有病者率は減少しています。歯科衛生士による学校での歯科保健指導により、歯周病に関する認識は高くなっています。しかし、歯肉炎のみられる割合はあまり変化がみられず、仕上げみがきを行っている割合も低くなっています。歯肉炎に関する指導を強化するとともに児童生徒だけではなく、保護者を対象にした働きかけも必要です。

《現状》

■平成 29 年度むし歯、歯肉炎について

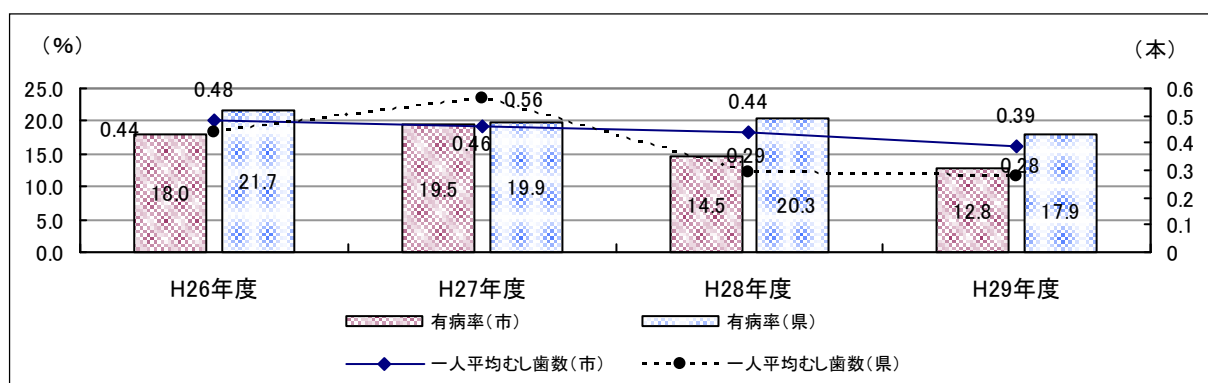
- ・12 歳児一人平均むし歯数及びむし歯有病者率は、県平均値より低く減少傾向にあります。(図表 2-1、2-2)
- ・歯肉炎で受診を勧められる児童生徒の割合は、小学生 9.1%で県平均 10.9%より低く、中学生 22.8%で県平均値 18.4%より高いです。
- ・むし歯で治療を勧められ歯科医院を受診する者の割合は、小学生 64.3%、中学生は 78.8%でした。歯肉炎で治療を勧められ歯科医院を受診する者の割合は、小学生 38.8%、中学生 27.3%と必要な治療を受けていない児童生徒が多く小中学生ともに県平均値より低いです。(図表 2-3)

【図表 2-1】平成 29 年度 12 歳児の平均むし歯数



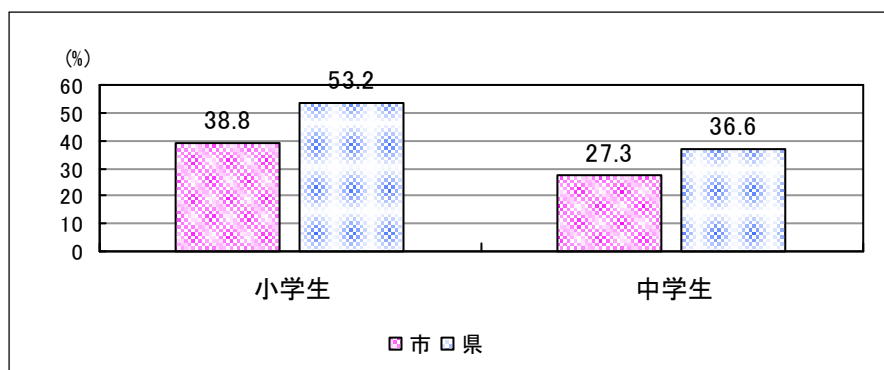
資料：小児の歯科疾患の現状と歯科保健対策

【図表 2-2】12 歳児むし歯有病率と一人平均むし歯数



資料：小児の歯科疾患の現状と歯科保健対策

【図表 2-3】平成 29 年度 歯肉炎勧奨対象者のうち歯科医院を受診した割合



資料：小児の歯科疾患の現状と歯科保健対策

■歯科に関する生活習慣について（小中学生アンケート調査より）

* 下記（ ）内は調査年度

- ・補助的清掃用具を使用している者の割合は小学生 50.4%、中学生 44.1%（中学 3 年生 45.3%）で中学生になると使用割合は減少しています。（平成 30 年度）
- ・小学 1、2 年生の保護者が仕上げみがきをしている者の割合は 50.7%でした。（平成 30 年度）
- ・歯周病を知っている者の割合は小学 6 年生 70.5%、中学 3 年生 74.1%でした。（平成 30 年度）
- ・中学 1 年生歯科保健指導後のアンケートより、甘いおやつを「時々食べる」「毎日食べる」と回答した者の割合は 84.2%、スポーツドリンクを「毎日飲む」と回答した者の割合は 12.1%でした。（平成 29 年度）

《課題》

- （1）小学校低学年まで仕上げみがきを続けるために、保護者の意識を高める必要があります。
- （2）中学生の歯肉炎で受診を勧められる生徒が多いため、早期治療と適切な指導を受ける必要があります。
- （3）むし歯、歯肉炎予防のために、補助的清掃用具を毎日使用する習慣をつける必要があります。

《取組》

個人・家庭・地域	<ul style="list-style-type: none"> 正しい仕上げみがきの方法を知り、小学校低学年まで仕上げみがきを継続する。 かかりつけ歯科医をもち定期的に歯科健診を受け、歯や口腔ケアの指導を受ける。 歯科健診後治療勧告を受けたら早めに受診する。 定期的にフッ化物洗口を受ける。 おやつの適切な量や回数を決め、だらだら食べをしないように努める。 よくかんでバランスの良い食事を心がける。
関係機関	<p>【学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食後の歯みがき指導を推進する。 治療などが必要な子どもの受診勧奨を強化する。 保健だよりなどを通じて歯やお口の健康の大切さを普及する。 <p>【学校・歯科医師会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校関係者、PTA、学校歯科医師の連携を強化し講話や歯科指導など歯科保健の取組を行う。
行政	<ul style="list-style-type: none"> 市報やホームページ、パンフレットなどでむし歯、歯周病予防について普及啓発する。 小中学校で歯科衛生士によるむし歯、歯周病予防教室を行う。 中学校でのフッ化物洗口の対象学年を拡充する。 給食によくかむことを意識できるメニューを取り入れる。 かかりつけ歯科医をもち定期的な歯科健診を勧める。

《評価指標》

評価指標	現状値	目標値 H34(2022)年度
12歳児のむし歯有病者率(中1)	12.8% (H29年度)	9%
12歳児の一人平均むし歯数(中1)	0.28本 (H29年度)	0.2本
歯肉炎のみられる(G0・G)小中学生の割合	小学生 9.1% 中学生 22.8% (H29年度)	小学生 5% 中学生 15%
補助的清掃用具を使用している小中学生の割合(中学生は中3のみ)	小学生 50.4% 中学生 45.3% (H30年度)	小学生 65% 中学3年生 58%
仕上げみがきを1回以上行っている小学生の割合(低学年)	50.7% (H30年度)	55%

3. 成人期

めざす姿

**歯と口腔の健康を維持するために
歯周病を予防する**

《これまでの主な取組》

- ・ 妊婦歯科健診の実施
- ・ 成人歯科健診の実施（20歳、30歳、40歳、45歳、50歳、55歳）
- ・ イベントなどで歯と口腔に関する啓発普及

《1次計画の評価》

目標達成状況

◎達成 ○目標に届かないが改善 ×悪化 —未評価

評価指標	策定時 (H24年度)	直近値	目標値 (H30年度)	評価
歯科定期健診をしている人の割合	31.1% (H24年度)	58.7% (H30年度)	35%	◎
成人歯科健診受診率	10.2% (H24年度)	12.3% (H29年度)	13%	○
補助的清掃用具を使用している人の割合	53.9% (H24年度)	63.1% (H30年度)	70%	○
歯周病が全身に及ぼす影響を知っている人の割合	60.1% (H24年度)	70.6% (H30年度)	65%	◎
喫煙と歯周病の関係を知っている人の割合	31.7% (H24年度)	48.5% (H30年度)	36%	◎
セルフケアができている人の割合	10.8% (H24年度)	—	15%	—
妊娠中に歯科健診を受ける人の割合	22% (H24年度)	—	27%	—
妊婦で補助的清掃用具を使用している人の割合	40.9% (H24年度)	43.2% (H29年度)	45%	○
歯周病が早産や低体重児に影響することを知っている人の割合	20.2% (H24年度)	50% (H29年度)	25%	◎

成人歯科健診は新たに平成26年度から40歳以降を5歳刻みとし、平成29年度には20歳、30歳も加え対象者の拡充を図りました。受診したことをきっかけに、口腔ケアの指導を受け定期健診の必要性などの理解につながっています。今後も更なる受診率の向上を図っていく事が重要です。

《現状》

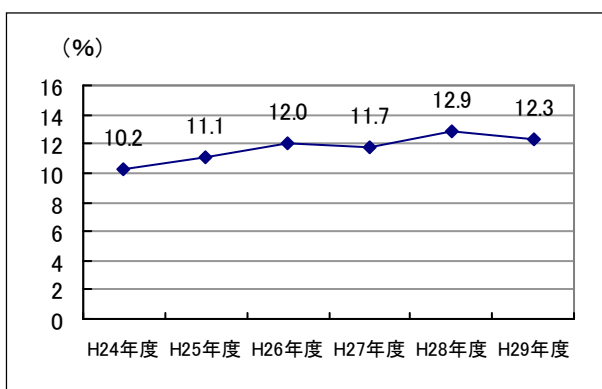
■成人歯科健診について

- ・受診率は11～12%前後で推移しています。平成29年度受診者のうち67.5%が要精密検査と判定され、内訳は歯周疾患が57.5%、むし歯が28.7%（重複あり）でした。（図表3-1）
- ・平成27年度県の歯周疾患検診（40、50、60、70歳）受診率は8.1%で、市では12.2%と県平均よりは高い状況でした。

■妊婦歯科健診について

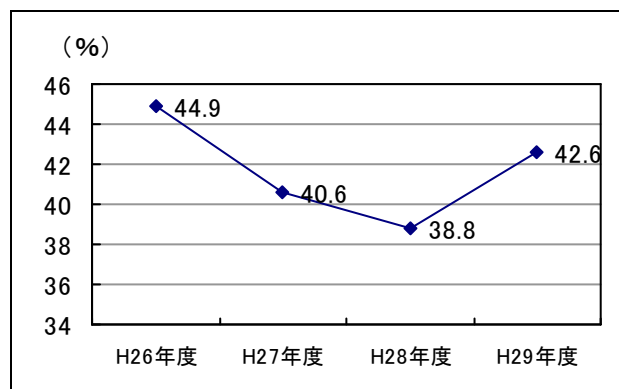
- ・受診率は40%前後で推移しています。平成29年度受診者のうち47.2%が要精密検査と判定され、内訳は歯周疾患が32.5%、むし歯が30.1%（重複あり）でした。（図表3-2）

【図表3-1】成人歯科健診受診率の推移



資料：市町村歯科保健事業実施状況

【図表3-2】妊婦歯科健診受診率の推移

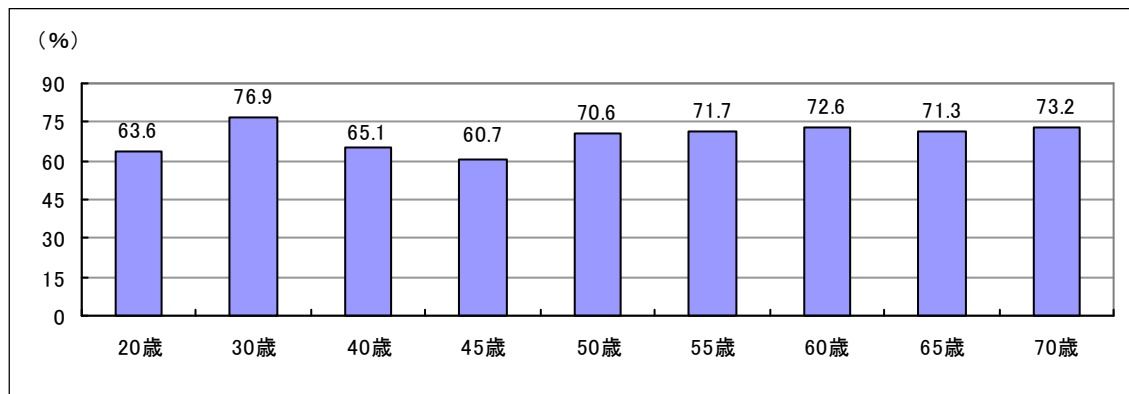


資料：市町村歯科保健事業実施状況

■平成29年度の成人歯科健診・妊婦歯科健診の結果

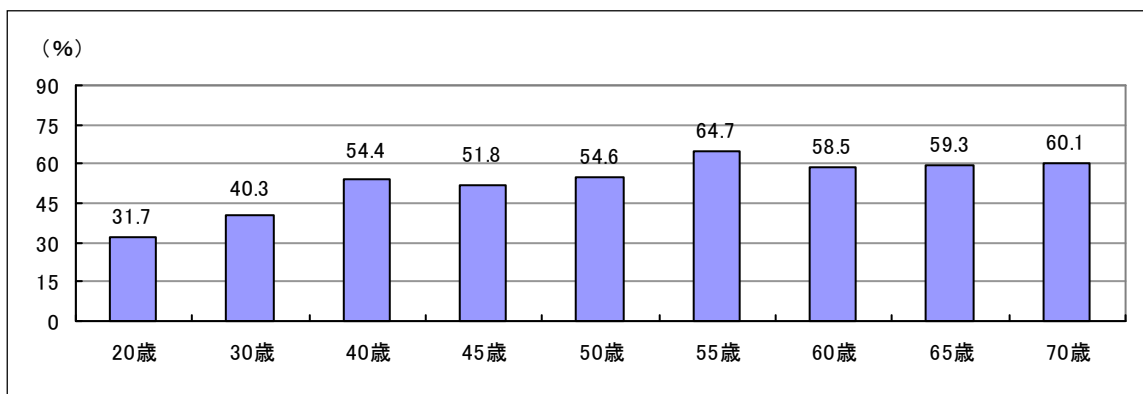
- ・歯肉に炎症を有する者の割合で最も多かったのは、30歳で76.9%でした。（図表3-3）
- ・進行した歯周炎を有する者の割合は年齢が上がることに増加しています。（図表3-4）
- ・40歳代、60歳代で進行した歯周炎を有する者の割合は、平成26年度から比べると減少傾向にあります。（図表3-5）
- ・喪失歯の無い者の割合は、40歳から急激に減少しています。未処置歯を有する者は若年層に多いですが、どの年代も大きな差はありませんでした。（図表3-6）

【図表 3-3】 歯肉に炎症を有する者の割合



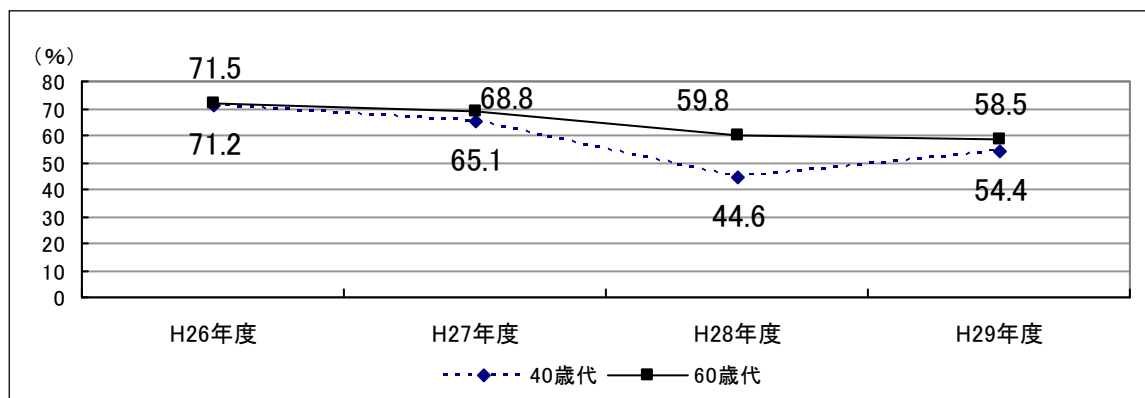
資料：妊婦歯科健診・成人歯科健診統計

【図表 3-4】 進行した歯周炎を有する者の割合



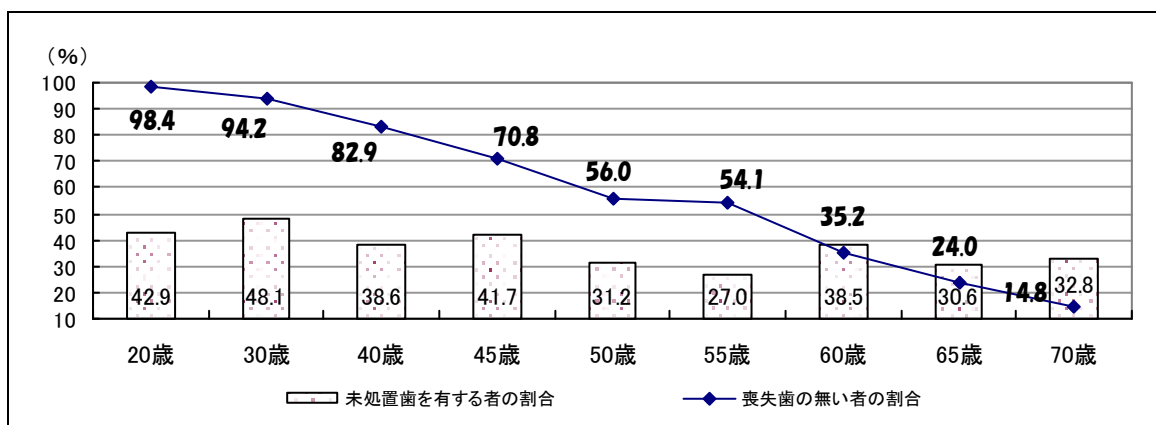
資料：妊婦歯科健診・成人歯科健診統計

【図表 3-5】 40歳代・60歳代の歯周炎を有する者の割合



資料：妊婦歯科健診・成人歯科健診統計

【図表 3-6】喪失歯の無い・未処置歯を有する者の割合

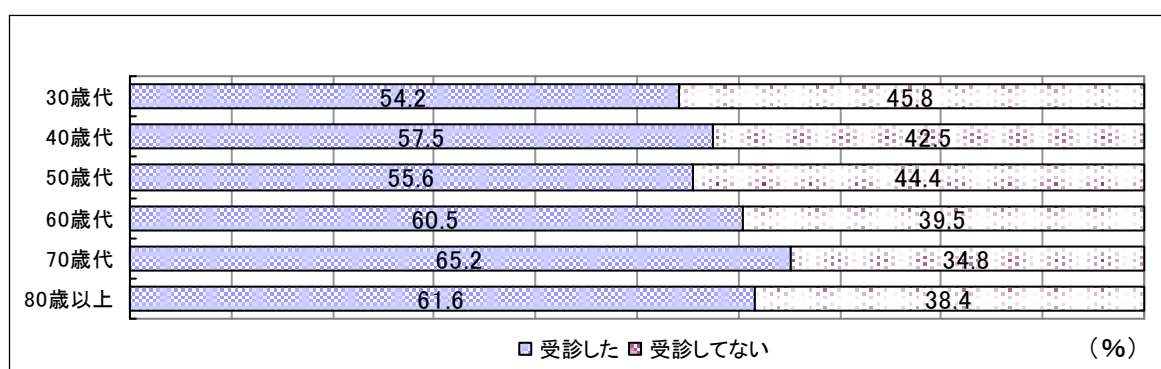


資料：妊婦歯科健診・成人歯科健診統計

■平成 30 年度特定健康診査受診者の歯科に関するアンケート調査より

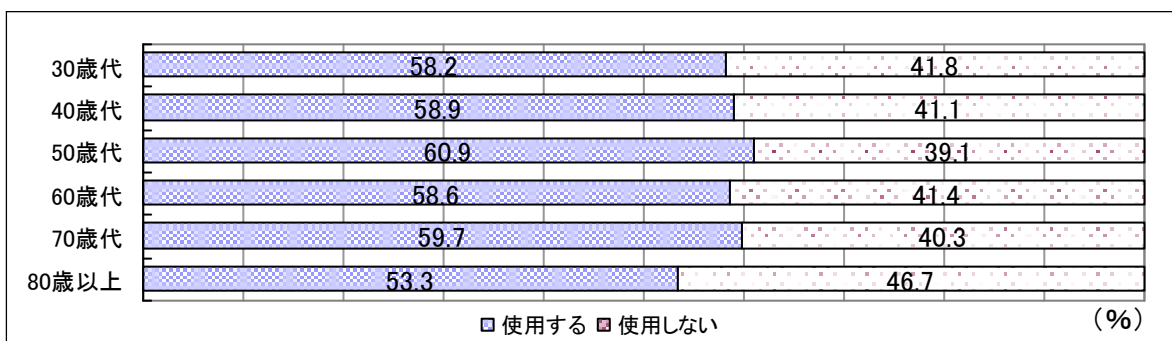
- ・過去 1 年間に歯科健診を受診した者の割合は、70 歳代が最も高く 65.2% でした。(図表 3-7)
- ・定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている者の割合は 58.7% で、年代に大きな差はありません。(図表 3-8)
- ・30～50 歳代で 24 本以上自分の歯を有する者の割合は、年齢が上がるほどその割合は減少しています。(図表 3-9)
- ・40～70 歳代で補助的清掃用具を使用している者の割合は 63.1% でした。年齢が若いほど毎日使用している者の割合は減少しています。(図表 3-10)
- ・一口 30 回かんで食べるよう意識している者の割合は 28% で、年齢が上がるほど増加しています。(図表 3-11)

【図表 3-7】過去 1 年間の歯科健診受診状況



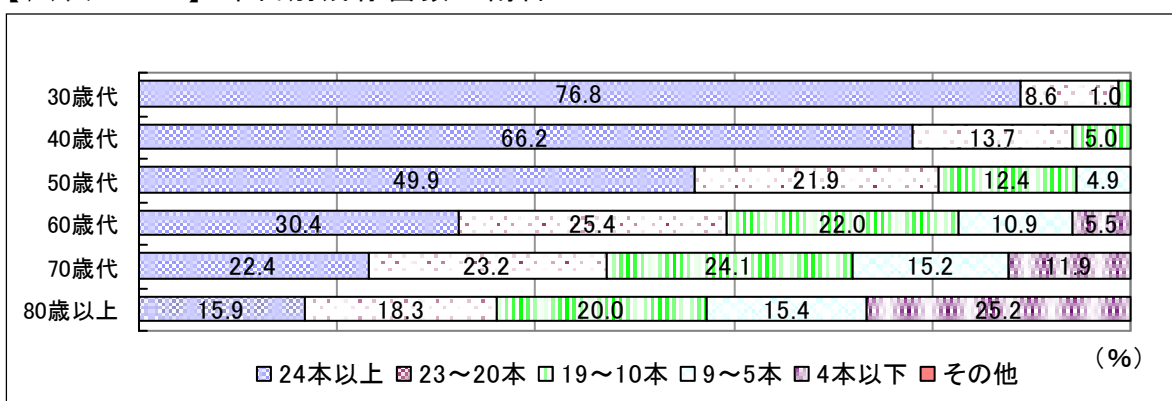
資料：特定健診受診者アンケート結果

【図表3-8】定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている割合



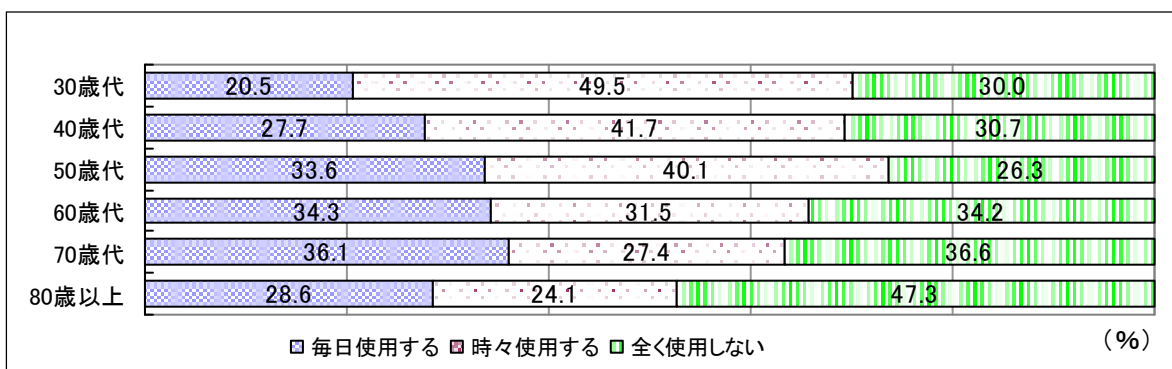
資料：特定健診受診者アンケート結果

【図表3-9】年代別残存歯数の割合



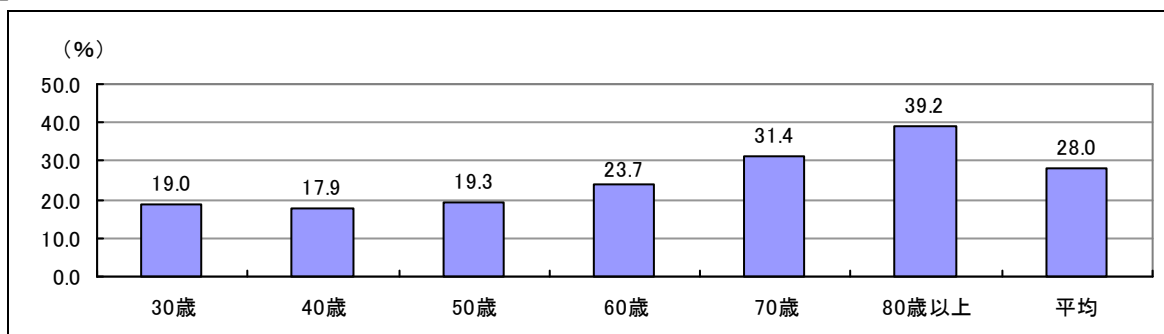
資料：特定健診受診者アンケート結果

【図表3-10】年代別補助的清掃用具の使用状況



資料：特定健診受診者アンケート結果

【図表3-11】一口30回かんで食べるよう意識している者の割合



資料：特定健診標準的質問表

《課題》

- (1) 若い年代から歯肉に炎症所見がみられ、重症化予防のため若年層からかかりつけ歯科医をもち定期的に歯科健診を受ける必要があります。
- (2) う歯、歯周病の重症化を防ぐために、適切な口腔ケアの指導を受け家庭で実践する必要があります。

《取組》

個人・家庭・地域	<ul style="list-style-type: none"> ・フッ化物入り歯磨き剤を使用し、毎食後に歯みがきをする。 ・補助的清掃用具を使う。 ・定期的に歯科健診を受診する。 ・バランスの良い食生活や、よくかんで食べることを心がける。
関係機関	<p>【歯科医師会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無料歯科相談などを実施し、気軽に相談できる機会を設ける。 ・妊娠期の歯とお口の健康の大切さを普及する。 ・歯科健診受診者に対し、補助的清掃用具の使用法や定期歯科健診の必要性について指導するとともに、かかりつけ歯科医を持つことの普及啓発を行う。 ・市民を対象に歯周病の予防や口腔機能維持のための啓発を行う
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・市報やホームページ、パンフレットなどで妊娠期の歯とお口の健康の大切さを普及する。 ・早産や低出生体重児、歯周病の予防のため禁煙を推進する。 ・妊婦歯科健診や成人歯科健診などを受診するよう指導する。 ・歯周疾患と生活習慣病との関連性について周知する。 ・成人歯科健診受診者に対し、関係機関と連携し口腔ケア定着に向けた取組を進める。 ・かかりつけ歯科医を持ち定期歯科健診を受診することの重要性について普及啓発を行う。

《評価指標》

評価指標	現状値	目標値 H34(2022)年度
妊婦歯科健診受診率	42.6% (H29年度)	50%
成人歯科健診受診率	12.3% (H29年度)	13%
過去1年間に歯科健診を受診した者の割合	61.8% (H30年度)	80%
定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている者の割合	58.7% (H30年度)	76%
補助的清掃用具を使用している者の割合 (40～70歳)	63.1% (H30年度)	82%
一口30回以上かんで食べるよう意識している者の割合	28% (H30年度)	36%
20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合	63.6% (H29年度)	45%
30歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合	76.9% (H29年度)	54%
40歳代における進行した歯周炎を有する者の割合	54.4% (H29年度)	38%
40歳の未処置歯を有する者の割合	38.6% (H29年度)	27%
40歳で喪失歯のない者の割合	82.9% (H29年度)	90%

4. 高齢期

めざす姿 **しっかりかんで飲み込むことができる**

《これまでの主な取組》

- ・成人歯科健診の実施（60歳、65歳、70歳）
- ・歯科衛生士による出前講座「歯っぴーライフ」を地域の茶の間などで実施
- ・介護予防事業で口腔機能向上を図るための事業を実施

《1次計画の評価》

目標達成状況

◎達成 ○目標に届かないが改善 ×悪化 ー未評価

評価指標	策定時 (H24年度)	直近値	目標値 (H30年度)	評価
70歳で自分の歯が20本以上ある人の割合	64.2% (H23年度)	45% (H30年度)	70%	×
80歳で自分の歯が20本以上ある人の割合	26.1% (H24年度)	34.2% (H30年度)	35%	○

80歳で自分の歯が20本以上ある人の割合は増えている一方、70歳では減少しています。高齢期は根面むし歯や歯周病が進行し喪失歯が増える時期であり70歳、80歳とも目標値には達成していないことから、今後も取組を継続していく必要があります。

《現状》

■平成29年度成人歯科健診より

- ・進行した歯周炎を有する者の割合は、60歳代で58.5%、70歳で60.1%でした。（図表3-4参照）
- ・未処置歯を有する者の割合は60歳代38.5%、70歳32.8%でした。（図表3-6）
- ・喪失歯の無い者の割合は60歳代35.2%、70歳14.8%と減少しています。（図表3-6）

■平成30年度特定健診受診者の歯科に関するアンケート調査より

- ・60歳で24本以上自分の歯を有する者の割合は36.2%で国69.9%（平成27年度）、県74.4%（平成28年度）と国や県と比較していずれも低くなっています。
- ・20本以上自分の歯を有する者の割合は70歳（65～74歳）45.0%、80歳（75～84歳）34.2%でした。80歳（75～84歳）では県39.1%（平成27年度）より低くなっています。

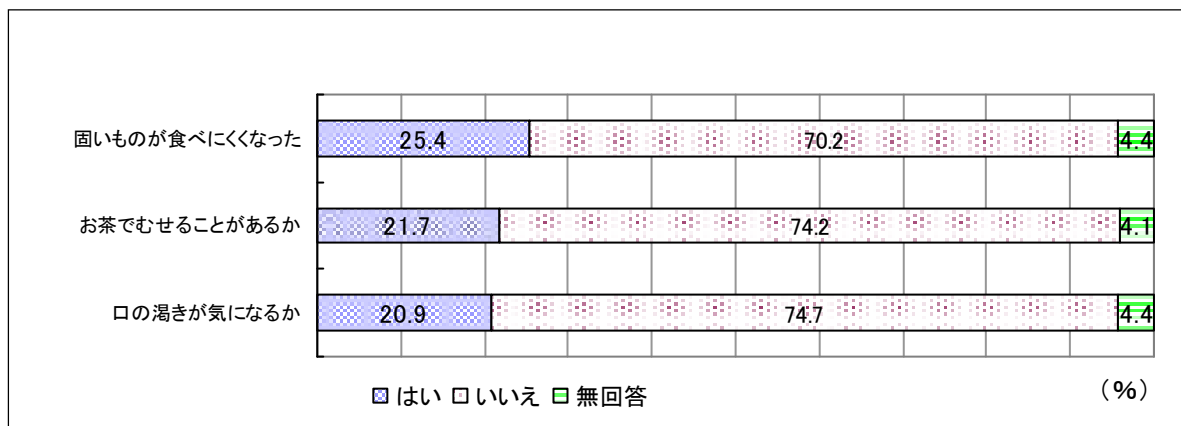
■日常生活圏域ニーズ調査より（平成28年度実施）

- ・「半年前に比べて固いものが食べにくくなった」と回答した者の割合は25.4%、「お茶などでむせることがある」21.7%、「口の渇きが気になる」20.9%でした。

（図表4-1）

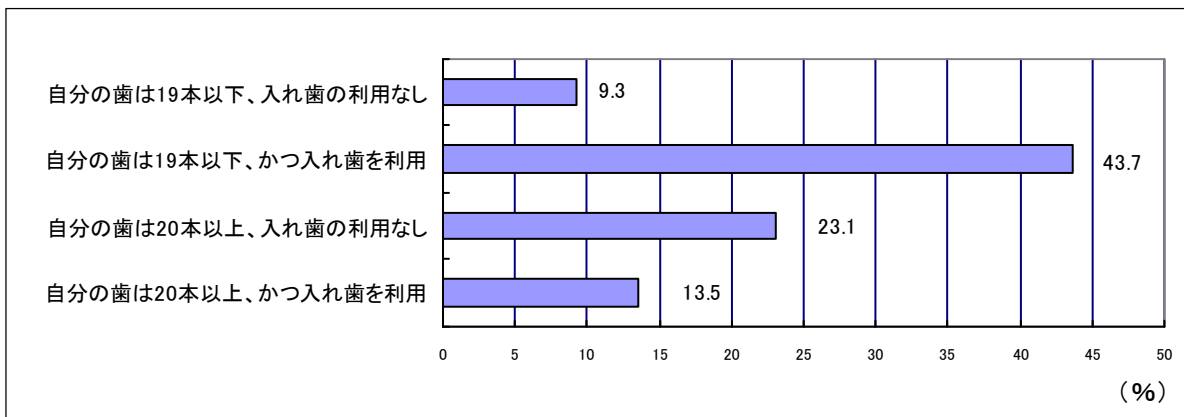
- ・歯の数と入れ歯の利用状況では、自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用している者の割合が43.7%と一番多かったです。（図表4-2）

【図表4-1】平成28年度 食べることについて



資料：日常生活圏域ニーズ調査

【図表4-2】平成28年度 歯の数と入れ歯の利用状況



資料：日常生活圏域ニーズ調査

《課題》

- (1) 全身の健康状態を良好に保つため、口腔ケアを理解し実践する必要があります。
- (2) かむ力や飲み込む力を維持するため、かかりつけ歯科医をもち定期的に歯科受診する必要があります。

《取組》

個人・家庭・地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯やお口の健康に関心を持つ。 ・ 毎日自分のお口の状態を観察し、毎食後に歯みがきとお口の手入れをする。 ・ かかりつけ歯科医を持ち定期的に歯科受診をする。 ・ 地域の集まりや老人クラブなどで歯やお口の健康教育を受ける。 ・ 口腔機能低下予防のためお口の体操やマッサージを行う。 ・ 口腔機能向上事業に参加する。
関係機関	<p>【歯科医院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯や入れ歯の手入れについて指導する。 <p>【歯科医師会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 無料歯科相談を実施し、気軽に相談できる機会を設ける。 ・ 市民を対象に歯周病の予防や口腔機能維持のための啓発を行う。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯周疾患と生活習慣病との関連性について周知する。 ・ 成人歯科健診の受診率向上のための取組を行う。 ・ 成人歯科健診受診者に対し、関係機関と連携し口腔ケア定着に向けた取組を進める。 ・ かかりつけ歯科医を持ち定期歯科健診を受診することの重要性について普及啓発を行う。 ・ フレイル対策や介護予防として、口腔機能向上事業の集団指導、個別指導を充実させる。 ・ 高齢者の口腔機能の実態を健診や口腔機能向上事業等で把握する。 ・ 市報や地域の茶の間などで歯周病や口腔ケア、オーラルフレイルについて普及啓発を行う。

《評価指標》

評価指標	現状値	目標値 H34(2022)年度
60歳代における進行した歯周炎を有する者の割合	58.5% (H29年度)	55%
60歳代の未処置歯を有する者の割合	38.5% (H29年度)	30%
60歳(55~64歳)で24本以上自分の歯を有する者の割合※	36.2% (H30年度)	40%
60歳代における咀嚼良好者の割合	79% (H29年度)	85%
80歳(75~84歳)で20本以上自分の歯を有する者の割合※	34.2% (H30年度)	37%

※60歳、80歳の定義は県の評価指標に準ずる

5. 要介護者・障がい者

めざす姿 **お口の健康に関心を持つことができる**

《これまでの主な取組》

- ・在宅要介護等無料歯科健診の周知（県事業）
- ・介護支援専門員などへの研修会を実施
- ・市報などによる在宅歯科医療連携室の周知

《1次計画の評価》

目標達成状況

◎達成 ○目標に届かないが改善 ×悪化 —未評価

評価指標	策定時 (H24年度)	直近値	目標値 (H30年度)	評価
在宅要介護等無料歯科健診事業（県）の利用件数	4件 (H24年度)	3件 (H29年度)	20件	×
介護者家族の集いなどでの健康教育実施件数	0件 (H24)	—	15件	—
定期的に歯科受診する人の割合	23.7% (H24年度)	28.2% (H30年度)	28%	◎

在宅要介護等無料歯科健診事業の利用件数は伸びていません。介護高齢課、福祉課と連携しながら在宅歯科医療連携室との情報共有を図り、個々の状態に応じた口腔ケア、セルフケア意識向上のため本人及び介護者、保護者の歯科保健に関する理解を深めることが重要です。

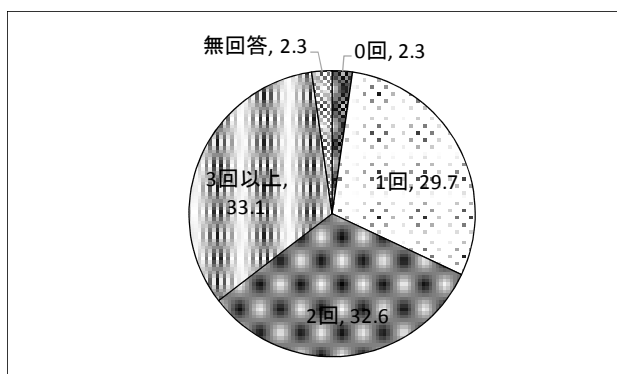
要介護

《現状》

■平成30年度歯科保健に関するアンケート調査より

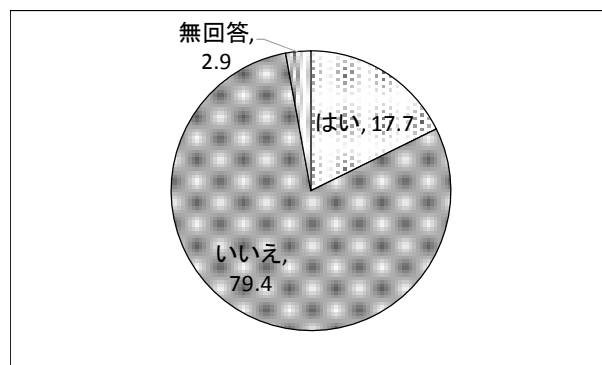
- ・お口の手入れ（歯みがきや入れ歯みがきなど）を、「1日3回以上」と回答した者の割合は33.1%でした。（図表5-1）
- ・定期的に歯科医院を受診している者の割合は17.7%でした。（図表5-2）
- ・歯の本数は4本以下が一番多く45.7%を占めています。（図表5-3）
- ・お口の状態で困っていることが「ある」と回答した者の割合は18.9%で、そのうち一番多かったのは、「入れ歯が合わない」でした。その他「口が渴く」「むせがある」「通院ができない」などの回答がありました。
- ・在宅要介護者等無料歯科健診事業（県事業）の利用者は少なく、H30年度では6件でした。（図表5-4）

【図表5-1】歯みがき回数の割合（%）



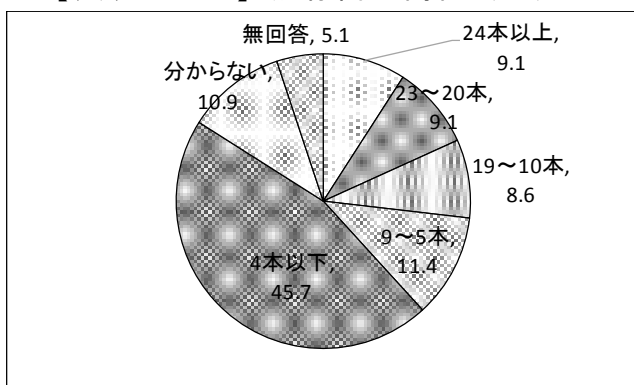
資料：歯科保健に関するアンケート調査

【図表5-2】定期的に歯科医院を受診している者の割合（%）



資料：歯科保健に関するアンケート調査

【図表5-3】残存歯の割合（%）



資料：歯科保健に関するアンケート調査

【図表5-4】在宅要介護者等無料歯科健診の利用者（県事業）

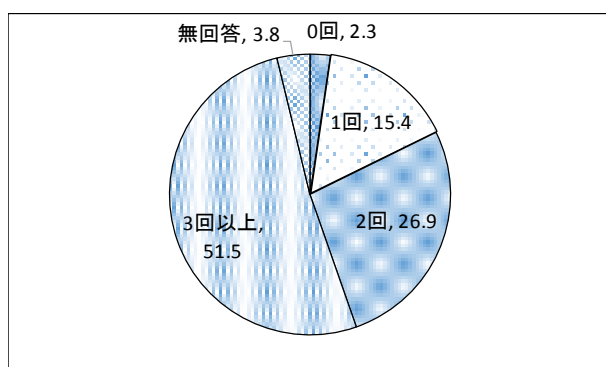
H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
7件	5件	3件	6件

障がい

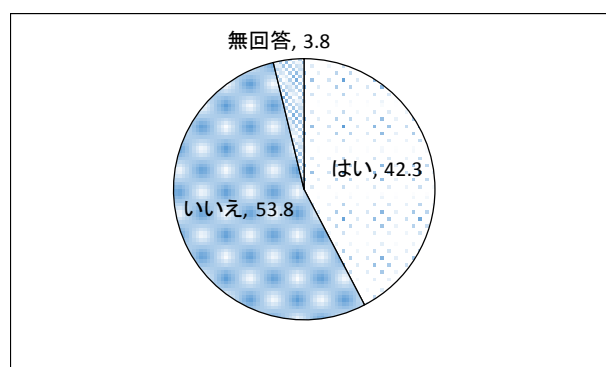
■平成30年度歯科保健に関するアンケート調査より

- ・お口の手入れ（歯みがきや入れ歯みがきなど）を、「1日3回以上」と回答した者の割合は51.5%でした。（図表5-5）
- ・定期的に歯科医院を受診している者の割合は42.3%でした。（図表5-6）
- ・歯の本数は24本以上が一番多く43.1%で、20本以上でみると58.5%になります。（図表5-7）
- ・お口の状態で困っていることが「ある」と回答した者の割合は15.4%で、内容は「通院ができない」「良く歯が磨けない」「歯槽膿漏・歯肉炎・歯石」「口臭」でした。

【図表5-5】歯みがき回数の割合（%） 【図表5-6】定期的に歯科医院を受診受診している者の割合（%）

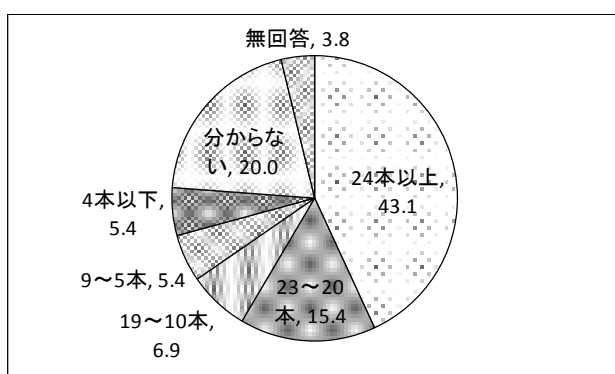


資料：歯科保健に関するアンケート調査



資料：歯科保健に関するアンケート調査

【図表5-7】残存歯の割合（%）



資料：歯科保健に関するアンケート調査

《課題》

- （1）口腔機能を維持するために本人に携わる人が、適切な口腔ケアを実践するとともに、歯科受診の必要性を判断し受診援助の必要があります。
- （2）お口の変化に気づくために、かかりつけ歯科医をもち定期受診をする必要があります。

《取組》

個人・家庭・地域	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケアの必要性を理解し、本人や家族が正しい口腔ケアを実践する。 ・介護を要する人や障がいのある人の歯やお口の状態に異常がないか、周囲の人が気づくため研修会などに参加する。 ・かかりつけ歯科医をもち定期的に受診する。 ・成人歯科健診を受診する。
関係機関	<p>【村上市岩船郡在宅歯科医療連携室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問歯科診療などの情報提供をし、相談や受診しやすい体制づくりをする。 ・障がい者診療及び在宅歯科診療が可能な歯科医院を周知する。 <p>【介護福祉施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設職員が正しい口腔ケアの方法や重要性を理解し実践する。 <p>【介護支援専門員、相談支援専門員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅要介護者等無料歯科健診の制度を理解し普及に努める。 ・村上市岩船郡在宅歯科医療連携室が作成した歯科治療必要性判断表をもとに、定期訪問時に口腔状態の確認を行い受診の必要性などを判断する。 <p>【歯科医師会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無料歯科相談を実施し気軽に相談できる機会を設ける。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・村上市岩船郡在宅歯科医療連携室と連携し市民への周知を行い利用者の促進に努める。 ・市民に広報やホームページで在宅要介護者等無料歯科健診の情報提供をする。 ・介護支援専門員研修会で口腔機能向上のための研修会などを開催する。 ・介護者向けの研修会などで口腔ケアに関する健康教育を行い、口腔ケアの重要性を普及啓発する。 ・かかりつけ歯科医を持つことの大切さについて普及啓発を行う。

《評価指標》

評価指標	現状値	目標値 H34(2022)年度
定期的に歯科受診する者の割合	28.2% (H30年度)	33%

第3章 計画の推進体制

1. 計画の推進体制

本市では「健康むらかみ21計画（第2次）」に基づき、市民の健康づくりを推進するため、「村上市健康づくり推進対策委員会」を設置しています。関係団体の代表者及び関係行政機関の代表者などから構成される本委員会において進捗管理と推進を図ります。

市民一人ひとりが歯や口腔の健康を維持するため、歯科保健活動を主体的に実践し目標を達成できるよう、行政だけでなく歯科医師会をはじめとする関係機関と情報を共有し連携しながら本計画を推進していきます。



2. 計画の評価・見直し

この計画は、上位計画である「健康むらかみ21計画（第2次）」の最終年度である平成34（2022）年度に最終評価及び次期計画策定を行い、進捗状況を「村上市健康づくり推進対策委員会」において管理します。

また、結果は市報やホームページ等で公開し、広く市民との情報の共有を図ります。

3. 評価指標

乳幼児期

項目	基礎データの根拠	現状値	目標値 H34 (2022) 年度
3歳児のむし歯有病者率	小児の歯科疾患の現状と歯科保健対策	14.9% (H29年度)	10%
5歳児のむし歯有病者率	小児の歯科疾患の現状と歯科保健対策	39.1% (H29年度)	30%

学童・思春期

項目	基礎データの根拠	現状値	目標値 H34 (2022) 年度
12歳児のむし歯有病者率 (中1)	小児の歯科疾患の現状と歯科保健対策	12.8% (H29年度)	9%
12歳児の一人平均むし歯数 (中1)	小児の歯科疾患の現状と歯科保健対策	0.28本 (H29年度)	0.2本
歯肉炎のみられる (G0・G) 小中学生の割合	小児の歯科疾患の現状と歯科保健対策	小学生 9.1% 中学生 22.8% (H29年度)	小学生 5% 中学生 15%
補助的清掃用具を使用している 小中学生の割合 (中学生は中3のみ)	平成30年度アンケート調査	小学生 50.4% 中学3年生 45.3% (H30年度)	小学生 65% 中学3年生 58%
仕上げみがきを1回以上行っている 小学生の割合 (低学年)	平成30年度アンケート調査	50.7% (H30年度)	55%

成人期

項目	基礎データの根拠	現状値	目標値 H34 (2022) 年度
妊婦歯科健診受診率	市町村歯科保健事業実施状況	42.6% (H29年度)	50%
成人歯科健診受診率	市町村歯科保健事業実施状況	12.3% (H29年度)	13%
過去1年間に歯科健診を受診した者の割合	平成30年度アンケート調査	61.8% (H30年度)	80%
定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている者の割合	平成30年度アンケート調査	58.7% (H30年度)	76%
補助的清掃用具を使用している者の割合(40~70歳)	平成30年度アンケート調査	63.1% (H30年度)	70%
一口30回以上かんで食べるよう意識している者の割合	平成30年度アンケート調査	28.0% (H30年度)	36%
20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合	成人歯科健診	63.6% (H29年度)	45%
30歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合	成人歯科健診	76.9% (H29年度)	54%
40歳代における進行した歯周炎を有する者の割合	成人歯科健診	54.4% (H29年度)	38%
40歳の未処置歯を有する者の割合	成人歯科健診	38.6% (H29年度)	27%
40歳でも失歯のない者の割合	成人歯科健診	82.9% (H29年度)	90%

高齢期

項目	基礎データの 根拠	現状値	目標値 H34 (2022) 年度
60歳代における進行した歯周炎を有する者の割合	成人歯科健診	58.5% (H29年度)	55%
60歳の未処置歯を有する者の割合	成人歯科健診	38.5% (H29年度)	26%
60歳(55～64歳)で24本以上自分の歯を有する者の割合	平成30年度 アンケート 調査	36.2% (H30年度)	47%
60歳代における咀嚼良好者の割合	特定健診 標準的 質問票	79.0% 〈H30参考値〉	80%
80歳(75～84歳)で20本以上自分の歯を有する者の割合	平成30年度 アンケート 調査	34.2% (H30年度)	35%

介護・障がい

項目	基礎データの 根拠	現状値	目標値 H34 (2022) 年度
定期的に歯科受診する者の割合	平成30年度 アンケート 調査	28.2% (H30年度)	33%

1 統計資料

1) 小中学生アンケート結果

- (1) 調査時期：平成 30 年 6 月
- (2) 調査対象者：
 小学 1、2 年生保護者（801 人） 小学 3～6 年生（1,686 人）
 中学 1～3 年生（1,286 人）
- (3) 回収率：小学校 2,312 人（93.0%） 中学生 1,182 人（91.9%）
- (4) 結果

①歯間清掃用具を使用していますか

	使用する	使用しない	無回答
小学生	50.4%	49.0%	0.6%
中学生	44.1%	55.4%	0.5%
中学 3 年生	45.3%	54.7%	0.0%

②お子さんの仕上げみがきを 1 日 1 回以上行っていますか

(小学 1、2 年生)

毎日行う	時々行う	行わない	無回答
50.7%	33.1%	15.6%	0.6%

③歯周病について知っていますか

	知っている	知らない	無回答
小学生 (3～6 年生)	47.2%	51.2%	1.7%
小学 6 年生	70.5%	28.4%	1.2%
中学生	73.6%	24.5%	1.9%
中学 3 年生	74.1%	25.2%	0.7%

2) 特定健康診査アンケート結果

- (1) 調査時期：平成 30 年 5 月～6 月
 (2) 調査対象者：特定健康診査受診者
 (3) 回答数：6,128 人
 (4) 結果

①現在自分の歯は何本ありますか

	24 本 以上	23～20 本	19～10 本	9～5 本	4 本 以下	不明
30 歳代	76.8%	8.6%	1.0%	1.0%	0.0%	12.6%
40 歳代	66.2%	13.7%	5.0%	1.3%	1.7%	12.0%
50 歳代	49.9%	21.9%	12.4%	4.9%	1.9%	9.1%
60 歳代	30.4%	25.4%	22.0%	10.9%	5.5%	5.8%
70 歳代	22.4%	23.2%	24.1%	15.2%	11.9%	3.2%
80 歳以上	15.9%	18.3%	20.0%	15.4%	25.2%	5.2%
60 歳※1	36.2%	24.5%	18.0%	7.0%	2.5%	11.8%
80 歳※2	17.3%	16.9%	19.5%	12.6%	14.2%	19.5%

※1 60 歳は 55～64 歳 ※2 80 歳は 75～84 歳

②1 日何回歯をみがきますか

1 回	2 回	3 回	4 回
22.3%	50.2%	23.6%	3.9%

③過去 1 年間に歯科健診を受診しましたか

受診した	受診していない
61.8%	38.2%

④定期的に歯石除去や歯面清掃を受けていますか

受けている	まったく受けていない
58.7%	41.4%

⑤フロスなど歯間清掃用具を使用していますか

	使用する	使用しない
30 歳代	64.4%	35.6%
40～70 歳	63.1%	36.9%

⑥歯周病が全身に及ぼす影響をしていますか

知っている	知らない
70.6%	29.4%

⑦歯周病と喫煙は関係があることを知っていますか

知っている	知らない
48.5%	51.5%

⑧一口30回かんで食べるよう意識していますか

	意識している	意識していない
30歳代	19.0%	81.0%
40歳代	17.9%	82.1%
50歳代	19.3%	80.7%
60歳代	23.7%	76.3%
70歳代	31.4%	68.6%
80歳以上	39.2%	60.8%

3) 要介護認定者・障がい者アンケート結果

(1) 調査時期：平成30年6月

(2) 調査対象者：

要介護認定者（6月中に要介護認定更新者） 213人

障がい者（いわくすの里・やまやの里・浦田の里・みどりの家通所
サービス利用者） 134人

(3) 回収率：要介護認定者 175人(83.0%) 障がい者 130人(97.0%)

(4) 結果

①お口の手入れを1日何回していますか

	0回	1回	2回	3回以上	無回答
要介護認定者	2.3%	29.7%	32.6%	33.1%	2.3%
障がい者	2.3%	15.4%	26.9%	51.5%	3.8%

②定期的に歯科医院を受診していますか

	はい	いいえ	無回答
要介護認定者	17.7%	79.4%	2.9%
障がい者	42.3%	53.8%	3.8%
合計	28.2%	68.5%	3.3%

③現在、自分の歯は何本ありますか

	24本 以上	23～20 本	19～ 10本	9～5 本	4本 以下	不明	無回答
要介護 認定者	9.1%	9.1%	8.6%	11.4%	45.7%	10.9%	5.1%
障がい者	43.1%	15.4%	6.9%	5.4%	5.4%	20.0%	3.8%

④現在、お口の状態で困っていることはありますか

	ある	ない	無回答
要介護 認定者	18.9%	76.6%	4.6%
障がい者	15.4%	76.2%	8.5%

4) 成人歯科健診

(1) 受診率年次推移

H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
10.2%	11.0%	12.0%	11.7%	12.9%	12.3%

(2) 歯肉に炎症を有する割合（平成29年度）

（歯肉に炎症を有するとは：判定区分が要指導 a 又は要精密検査 a 又は b）

20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳
63.6%	76.9%	70.0%	69.7%	76.9%	73.2%

(3) 進行した歯周炎を有する割合

①経年変化

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
40歳代	71.2%	65.1%	44.6%	54.4%
60歳代	71.5%	68.8%	59.8%	58.5%

②平成 29 年度年代別割合

20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳
31.7%	40.3%	54.4%	54.6%	58.5%	60.1%

(4) 喪失歯のない者の割合 (平成 29 年度)

20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳
98.4%	94.2%	82.9%	56.0%	35.2%	14.8%

(5) 未処置歯を有する者の割合 (平成 29 年度)

20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳
42.9%	48.1%	38.6%	31.2%	38.5%	32.8%

2 歯科保健計画評価指標（第1次）

	項目	策定時	実績値						目標値	評価	基礎データの根拠
		H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H30年度		
胎 生 期	妊娠中に歯科健診を受ける人の割合	22.0%	—	—	—	—	—	—	27%	—	妊娠届アンケート
	歯間清掃用具を使用している	40.9%	—	—	40.8%	41.8%	43.2%		45%	○	妊娠届アンケート
	歯周病や早産が低出生体重児に影響することを知っている	20.2%	—	—	44.6%	50.0%	50.0%		25%	◎	妊娠届アンケート
乳 幼 児 期	3歳児の一人平均むし歯数	0.8本 (H23年度)	0.73本 (H24年度)	0.74本 (H25年)	0.82本 (H26年度)	0.58本 (H27年度)	0.68本 (H28年度)	0.52本 (29年度)	0.5本	○	小児の歯科疾患の現状と歯科保険対策
	3歳児むし歯有病率	23.4% (H23年度)	18.8% (H24年度)	20.3% (H25年度)	20.9% (H26年度)	17.6% (H27年度)	17.9% (H28年度)	14.9% (H29年度)	20%	◎	小児の歯科疾患の現状と歯科保険対策
	2歳児の仕上げみがきをしている人の割合	92.2%	—	—	—	—	96.8%		95%	◎	幼児健診アンケート
	おやつのだらだら食べをしている園児の割合	44.9%	H30年度より国、県の評価指標と合わせたため未評価						40%	—	アンケート調査
学 齢 期 ・ 思 春 期	12歳児むし歯有病率(中1)	21.2% (H23年度)	21.8% (H24年度)	15.9% (H25年度)	18.0% (H26年度)	19.5% (H27年度)	14.5% (H28年度)	12.8% (H29年度)	18%	◎	小児の歯科疾患の現状と歯科保険対策
	12歳児の一人平均むし歯数(中1)	0.48本 (h23年度)	0.48本 (H24年度)	0.32本 (H25年度)	0.44本 (H26年度)	0.56本 (H27年度)	0.29本 (H28年度)	0.28本 (H29年度)	0.3本	◎	小児の歯科疾患の現状と歯科保険対策
	歯肉炎のみられる(GO/G)小中学生の割合	《小学生》 9.2% 《中学生》 26.7% (H23年度)	—	—	—	6.84% 《中学生》 25.1% (H28年度)	《小学生》 9.1% 《中学生》 22.8% (H29年度)	《小学生》 5% 《中学生》 15%	○	小児の歯科疾患の現状と歯科保険対策	
	補助的清掃用具(デンタルフロスまたは歯間ブラシ)を使用している小中学生の割合	《小学生》 21.3% 《中学生》 14.2% (H23年度)	—	—	—	—	—	《小学生》 50.4% 《中学生》 45.3%	《小学生》 25% 《中学生》 20%	◎	アンケート調査
	仕上げみがきを1日1回以上行っている小学生の割合(小1・小2)	51.3%	—	—	—	—	—	55%	×	アンケート調査	
	歯周病を知っている小中学生の割合(小6・中3)	27.4%	—	—	—	—	—	《小6》 70.5% 《中3》 74.1%	32%	◎	アンケート調査
成 人 期	歯科定期健診をしている人の割合	31.1%	—	—	—	—	—	58.7%	35%	◎	アンケート調査
	成人歯科健診受診率	10.2%	11.0%	12.0%	11.7%	12.9%	12.3%		13%	○	市町村歯科保健事業実施状況
	補助的清掃用具(デンタルフロス・歯間ブラシ)を使用している人の割合	53.9%	—	—	—	—	—	63.1%	70%	○	アンケート調査
	歯周病が全身に及ぼす影響を知っている人の割合	60.1%	—	—	—	—	—	70.6%	65%	◎	アンケート調査
	喫煙と歯周病の関係を知っている人の割合	31.7%	—	—	—	—	—	48.5%	36%	◎	アンケート調査
	セルフケアができていない人の割合	10.8%	H30年度より国、県の評価指標と合わせたため未評価						15%	—	アンケート調査
老 年 期	70歳で自分の歯が20本以上ある人の割合	64.2%	—	—	—	—	—	45.0%	70%	×	アンケート調査
	80歳で自分の歯が20本以上ある人の割合	26.1%	—	—	—	—	—	34.2%	35%	○	アンケート調査
介 護 ・ 障 が い	在宅介護等無料健診事業(県)の利用件数	4件			7件	5件	3件		20件	×	在宅介護者等無料歯科健診事業
	介護者家族の集い等での健康教育実施件数	0件	H30年度より国、県の評価指標と合わせたため未評価						15件	—	介護者家族の集い
	定期的に歯科受診する人の割合	23.7%	—	—	—	—	—	28.2%	28%	◎	アンケート調査

3 村上市健康づくり推進対策委員会名簿

平成30年10月1日現在

	所 属	役 職	氏 名	摘 要
1	村上市岩船郡医師会		村山 裕一	
2	村上市岩船郡歯科医師会	会 長	中野 久士	
3	村上市区長会連絡協議会	会 長	会田 健次	
4	村上地域老人クラブ連合会	理 事	山田 正巳	
5	村上市岩船郡 PTA 協議会	理 事	中山 潤一	
6	村上第二保育園	保護者代表	大島 幾子	
7	村上地区体育協会	会 長	佐藤 真	委員長
8	村上市食生活改善推進委員協議会	副 会 長	渡邊留美子	副委員長
9	村上地域振興局健康福祉部	部 長	佐々木綾子	
10	福祉課	課 長	山田 和浩	
11	介護高齢課	課 長	小田 正浩	
12	農林水産課	課 長	大滝 敏文	
13	学校教育課	課 長	木村 正夫	
14	生涯学習課	課 長	板垣 敏幸	

4 用語解説（五十音順）

■かかりつけ歯科医

歯の治療だけでなく、定期的な健康診査や歯に関する相談等、さまざまな面でサポートする身近な歯科医療機関のこと。

■健康寿命

健康で自立して暮らすことができる期間。

■口腔

唇、頬、舌、口蓋、歯などからなる消化管最上部のこと。

■口腔機能

かむ・食べる・飲み込む・発声機能、唇や舌の動き等、口腔（口の中）が担う機能のこと。

■口腔ケア

口腔が持っているあらゆる働き（発音、摂食、咀嚼、嚥下、唾液分泌等）の口腔機能の維持・回復を目的とした機能的口腔ケアと、口腔内の歯、粘膜、舌や義歯等の汚れを取り除く器質的口腔ケアがある。

■ごえんせいはいえん誤嚥性肺炎

飲み込む機能の低下により、本来食道に入る飲食物や唾液等が気道から肺に入り、口腔内の細菌により起こる肺炎の事。胃液が食べ物と共に食道を逆流して起こることもある。

■オーラルフレイル

口腔機能の軽微な低下や食の偏りなどを含み、身体の衰え（フレイル）の一つ。滑舌低下、食べこぼし、わずかなむせ、かめない食品が増える、口の乾燥等の症状。

■健康むらかみ21計画

村上市総合計画を最上位計画とし、「やさしさと輝きに満ちた笑顔のまち村上」の実現のために、「栄養・食生活」「身体活動・運動」「生活習慣病予防」「たばこと健康」「休養・こころの健康」「歯・口腔の健康」「介護予防」の7つの重点分野ごとの健康づくりや妊娠期から高齢期までのライフステージごとの食育活動の施策を総合的に推進する計画（第2次改定により6つの重点分野に変更）

■こんめん根面むし歯

加齢や歯周病により歯茎が下がることで、歯と歯茎の境目から歯の根の部分にできる虫歯。

■在宅要介護等無料歯科健診事業（県事業）

在宅の要介護者等に対し、歯科健診等を行うことにより口腔機能の向上を図り、要介護状態の悪化を防ぎ、生活の質の向上に向けた歯科保健サービス体制を構築する事業

■仕上げみがき

むし歯が発生しやすい臼歯部咬合面（かみ合わせ）を中心に、磨き残しがないよう、保護者が子どもの歯みがきを行うこと。

■歯周病

歯と歯ぐきの隙間から侵入した細菌が歯肉に炎症を引き起こし、さらには歯を支える骨を溶かしてしまふ病気。歯肉のみに炎症がおこる歯肉炎と、他の歯周組織まで炎症がおこる歯周炎などがある。歯周病とむし歯が歯を失う2大原因。

■セルフケア

個人で行う健康の保持増進のために行うケアをいい、歯科では、歯みがき等の口腔清掃、食生活の改善等が主なもの。

■生活習慣病

食生活や喫煙、運動の有無といった生活習慣が要因となり発生する疾病。糖尿病、脳血管疾患、心筋梗塞、心臓病、高血圧、肥満、脂質異常症などがある。

■低出生体重児

出生時に体重が2500g未満の赤ちゃんを低出生体重児と呼び、在胎週数が36週未満で出生した場合を早産と呼ぶ。

■8020運動

生涯自分の歯で食べる楽しみを味わえるようにと、厚生労働省と日本歯科医師会が平成元年より提唱している、80歳になっても自分の歯を20本以上保つことを目標とする取組。20本以上の自分の歯があれば、食べることに支障をきたすことがないと言われている。

■フッ化物

フッ素を含む化合物で、むし歯予防に効果がある。むし歯予防の利用方法にはフッ化物入り歯みがき剤、健診や歯科医院などで行うフッ化物塗布、フッ化物溶液でブクブクうがいする洗口（せんこう）などがある。

■補助的清掃用具

「デンタルフロス」「歯間ブラシ」「舌ブラシ」などをいう。

デンタルフロス（糸ようじ）は、歯ブラシで清掃しにくい歯と歯の隙間、歯肉溝などをより効率的に清掃するために用いる。歯間ブラシは歯と歯の隙間の清掃に用いる。舌ブラシは、舌の上の汚れや舌苔を

取り除くためのものをいう。

■むし歯有病率

むし歯を有する者の占める割合をさし、むし歯の処置を完了していない未処置歯（要治療歯）、むし歯の処置が完了している処置歯、むし歯による喪失歯を1本以上有する者が含まれます。

■村上市岩船郡在宅歯科医療連携室

介護が必要で歯科医院への通院が困難な方などを対象に、在宅歯科医療の申し込みや、お口の悩み事の相談などに対応する。

村上市歯科保健計画

平成31年 月発行

発行 新潟県 村上市

編集 村上市 保健医療課

〒958-8501 新潟県村上市三之町1番1号

TEL (0254) 53-2111 FAX (0254) 53-3840

ホームページ <http://www.city.murakami.lg.jp>